

令和5年度 北海道羽幌高等学校 学校関係者評価票

A：十分である＝4点 B：概ね十分である＝3点 C：不十分である＝2点 D：改善を要する＝1点

領域		評価の観点	保護者評価	達成状況			自己評価(教職員)	学校関係者評価		
				後期 平均	前期 平均	前年 平均	改善に向けた取組	自己評価 の適切さ	改善に 向けた 取組の 適切さ	ご意見
学校運営	組織運営	1 本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.03	3.20	3.13	3.28	3) 反省事項を踏まえて行事の精選等を行うためにも、アンケートの回答率向上を目指した工夫が必要。	3.33	3.33	(1～7)子どもの数も減少している中で地域に根ざした高校の取組をもっと特徴をいかして発信してほしい。
		2 育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.09	3.20	3.31	3.44		3.33	3.33	
		3 前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	2.97	3.07	3.06	3.11		3.00	3.33	
	教職員と業務規律 の資質向上	4 信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や服務規律の保持及び不祥事防止など危機管理に努めている。	3.14	3.40	3.50	3.44	6) 業務の平準化は毎年の課題。 6) 業務量を減らそうという意識は高まっているのは間違いない。一方で、ただ忙しくなるからという理由で取り組むべきことにも取り組めていないこともあるように感じる。	3.00	3.00	業務改善についてはクラウド化等の工夫は認められるものの負担が偏ると問題がある。いずれは少人数で運営していく方向にシフトすべく考えていかなければならない。
		5 研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	3.06	3.67	3.56	2.89	7) 生徒に向き合う時間の確保をお願いしたい。 ?) 評価方法は教科それぞれだと思うが、10人以上の授業で平均評定が4.7～5.0になるのは授業のレベル設定等に見直しが必要なのではないだろうか。	3.00	3.00	
	職員の働き方改革	6 組織的な取組により、業務改善への意識を高めている。	2.97	3.13	2.88	3.06		2.67	2.67	
		7 効率的に業務に取り組むことにより、生徒との向き合う時間を確保し、教育の質の向上に努めている。	2.96	2.67	2.63	2.78		2.67	3.00	
教育活動	教務	8 学習シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っている。	2.97	3.20	3.19	3.11	9) 本校の学習に対する生徒のニーズは幅広いが、受験生にとって進路実現できる授業を展開しているのかは常に集団として考えなければいけないと感じる。受験生が偉いわけではないが、探究という名の下に調べ学習が増えすぎたり、映像教材に頼りきりの授業が増えたりしているように感じる。個別での指導をするなどして幅広いニーズに対応できるのが望ましいのではないか。 9、10、21) 大学受験に対応した学力が不足している（共通テストの結果から）。授業の成績上位者でも受験レベルの問題に太刀打ちできない状況も見られる。受験で点数を取ることが授業の目的ではないと思うが、受験に対応できる思考力を養っていく工夫が必要と感じる。一般入試で勝負する生徒が増えてきている現状なので、授業をはじめ、成績上位者へのサポートをもっと考えていく必要がある。	3.00	3.00	(8～11) 個々の学習能力に幅が有り、何となく中途半端に終わっているのでは…。それぞれの家庭での取組の重要性も理解してほしいです。 (12～14) 様々な制限の中での活動は大変な面もありますが、一町民も広く行事等に参加できるとより学校を身近に感じることができると思います。 学校祭も本来の形に戻り、生徒の活弁な姿を見られるようになりこれからも様々な体験を増やせると良い。今後も地域の特性を生かした活動に期待している。
		9 知識・技能の習得に加え、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用学力を育む授業を実践している。	3.00	2.93	3.13	3.06		3.00	3.00	
		10 主体的に学習（特に家庭学習）に取り組む習慣を身に付けさせる工夫・取組を行っている。	2.87	2.87	2.88	2.72		2.67	2.67	
		11 一人一台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、教育活動でICTや情報ツール、情報資源の活用を推進している。	3.03	3.47	3.31	2.78		3.00	3.00	
		12 Webページやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.31	3.47	3.56	3.44		2.67	3.00	
	総務	13 学校行事の公開や地域行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関・他校種等との連携に取り組んでいる。	3.21	3.27	3.38	3.33		3.00	3.00	
		14 学校とPTAの連携が十分図られ、PTA活動の充実を目指した取組を推進している。	2.93	3.27	3.25	3.28		3.00	3.00	
		15 いじめ防止に向けた校内体制が確立し、日常から生徒の状況把握及び未然防止、早期発見に努めている。	2.97	3.47	3.38	3.61		2.67	3.00	
	生徒指導	16 学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育んでいる。	3.23	3.47	3.50	3.67	17) 年々ボランティア活動の機会が減ってきていること及び、積極的な参加も減っているような気がします。（今年度は海岸清掃、子どもフェスティバルしかなかった但也有りますが。）	3.00	3.00	ボランティア活動は校内活動では得られない経験なので、部活動と合わせるなど続くと良い。 国際交流韓国訪問が再開され4年ぶりに機会が与えられたことは喜ばしい。
		17 ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	3.13	2.67	2.81	3.06		3.33	3.33	
		18 多様な生徒の特性や悩みを理解し、カウンセリングや特別支援教育体制の充実を図り、サポート委員会など校内体制の確立と関係諸機関との連携に努めている。	2.90	3.27	3.38	3.61		3.00	3.00	
		19 各教科の授業や各種教室・講演会等を通して、機を捉えて命や健康・安全の大切さを指導している。	3.13	3.33	3.19	3.50		3.00	3.00	
	健康安全	20 生命尊重の精神を養い、家庭との連携を深めながら、健康の保持増進に努めている。特に交通ルールやマナー指導を徹底し、交通安全に対する意識の高揚に努めている。	2.94	3.27	3.13	3.50		3.00	3.00	
		21 生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的で体系的なキャリア教育を行っている。	2.97	3.20	3.06	3.22		3.00	3.00	
	進路指導	22 収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.07	3.57	3.38	3.22	22) ここ数年で大学の一般受験の空気が出てきて、それに対する進路情報（大学の情報、勉強の仕方、模試に対応するための学力向上について等）の提供することが増えてきている。 23) 現在、学校に割り当てられた予算で今年度はリーディングスキルテストに取り組んでいます。そのお金の一部を使って、講師を招き、講演会とかはできないでしょうか？勉強に関すること、時代に関すること何でも構わないと思います。（個人的には自己啓発系の内容が良いと思います。）講演会を行って、生徒の意識が変わり、取り組む姿勢が良くなったケースも多く見ております。また、それは教員にも同じ影響があるとも考えております。	3.00	3.00	高校時代は子どもの将来に大いに関わる重要な時期です。生徒との関わりを重視し、生徒と向き合ってほしいと思います。
		23 生徒個々の良さや可能性を引き出し、各種の資格取得を目指し、一つ上の進路目標や将来の生き方、人生設計を育む態度を育成している。	3.01	3.40	3.25	3.39		3.33	3.33	
		24 教科等横断的な視点により学校教育全体で道徳教育に取り組んでいる。	3.03	2.60	2.56	3.00		3.00	3.00	
	道徳教育	25 地域の人材や関係諸機関と連携した道徳教育に取り組んでいる。	2.99	2.73	2.69	3.06		3.00	3.33	